

令和2年11月19日

広島信用金庫

令和2年度 上半期業績 について

広島信用金庫（理事長 武田龍雄）の令和2年度上半期業績につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 令和2年度 上半期業績概要

(1) 業容について

預 金	1,507,308百万円	(前期比 26,941百万円増)	1.8%増
貸 出 金	992,895百万円	(前期比 34,541百万円増)	3.6%増

預金は、地域に密着した営業活動の推進および各種給付金の支給等により、2年3月末比 269億円増加し、1兆5,073億円となりました。

貸出金は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている事業者の資金繰り支援を最優先に対応いたしました結果、2年3月末比 345億円増加し、9,928億円となりました。

(2) 利益について

経 常 収 益	10,768百万円	(前年同期比 531百万円減)	4.7%減
実質業務純益	1,766百万円	(前年同期比 65百万円増)	3.8%増
コア業務純益	1,766百万円	(前年同期比 65百万円増)	3.8%増
経 常 利 益	1,441百万円	(前年同期比 81百万円減)	5.3%減
当 期 純 利 益	1,042百万円	(前年同期比 120百万円減)	10.3%減

コロナ対応資金等への積極的な対応により貸出金利回りは低下しましたが、経費の削減などにより、コア業務純益は前年同期比65百万円増益の17億66百万円となりました。一方、株式等売却益の減少などにより経常利益は81百万円減益の14億41百万円、最終利益である当期純利益は、1億20百万円減益の10億42百万円となりました。

(3) 不良債権の処理状況について

資産のさらなる健全化をはかるべく、厳格な自己査定にもとづく不良債権の早期処理を行いました結果、令和2年度上半期における不良債権処理額は、4億39百万円（前年同期比5億20百万円減）となりました。

(4) 金融再生法による開示債権について

(金額単位：百万円)

	開示額 ①	担保・保証等 ②	貸倒引当金 ③	保全率 (②+③) / ①
破産更生債権等	3,607	652	2,955	100.0%
危険債権	21,798	12,174	5,123	79.3%
要管理債権	311	116	5	38.8%
小計	25,718	12,942	8,084	81.7%
正常債権	970,977			
合計	996,695			

金融再生法上の不良債権額は、257億18百万円（2年3月末比1億63百万円増、0.6%増）、不良債権比率は、2年3月末比0.07ポイント改善の2.58%となりました。なお、不良債権額のうち81.7%は、担保・保証および貸倒引当金により保全がはかられております。

(5) 自己資本比率（国内基準）について

自己資本総額	101,533百万円
コア資本に係る基礎項目	103,659百万円
コア資本に係る調整項目	2,125百万円
リスクアセット	788,111百万円
自己資本比率	12.88%

自己資本比率は、2年3月末比0.71ポイント上昇の12.88%となり、引き続き、国内基準の4.0%を大きく上回っております。

(6) 令和2年度決算予想（令和3年3月期予想）

- ・ 経常利益 30億円程度
- ・ 当期純利益 21億円程度
- ・ 自己資本比率 12%台
- ・ 不良債権比率 2%台

【お問い合わせ先】 経営企画部 広報室 TEL 082(245)0030